

吉田PBL

都市空間のイノベーション

吉田 敏 教授
福田 哲夫 教授
安藤 昌也 助教
三浦 哲也 (PM)
石堂 まゆ
清原 祐司
寒河江 峰夫
鳥濱 博

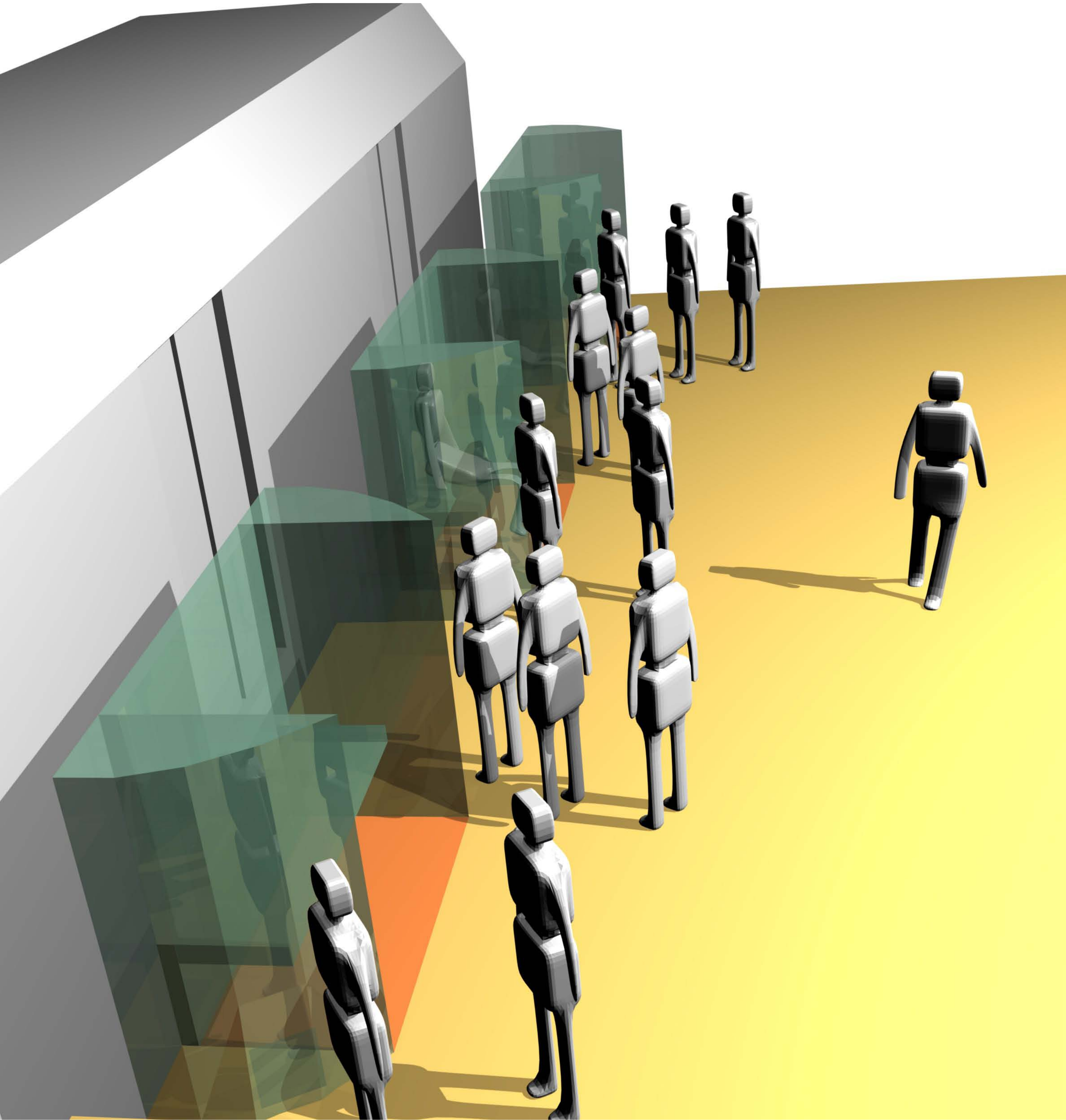
この“はし”歩くべからず

橋

ホームが「欄干の無い橋」と形容されているのはご存知ですか。川も線路も落ちればケガや死の危険があります。この”橋”をあなたならどうやって歩きますか？

端

線路への転落や電車との接触という危険が分かっているにもかかわらずホームの”端”を歩く人が居ます。何故でしょう？その理由を考察した上で、私たちはホームの端を歩かせないデバイスを提案します。



私たちは「プラットフォーム上に立つユーザーの為の空間づくり」のためにフィールドワークを重ね、3つの事を発見しました。

端

プラットフォームの端はユーザーにとっても視認性が良く、通路として認識され易い。同時に電車との接触や線路への転落の危険性がある。

障害物

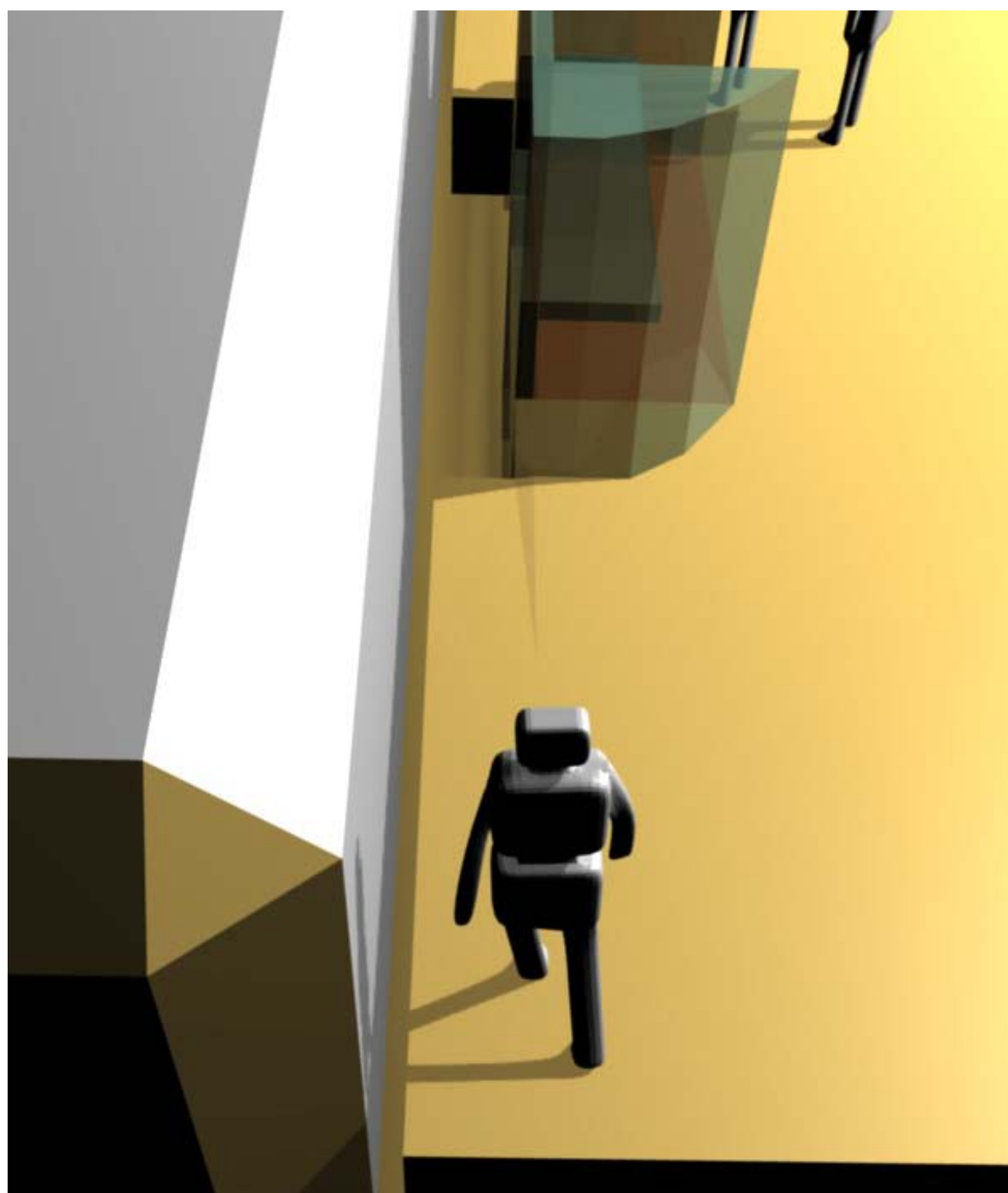
プラットフォーム中心線上には時刻表、自動販売機、ベンチ等が在るため動線には不向き。しかし、これらはプラットフォーム上に必要。

デッドスペース

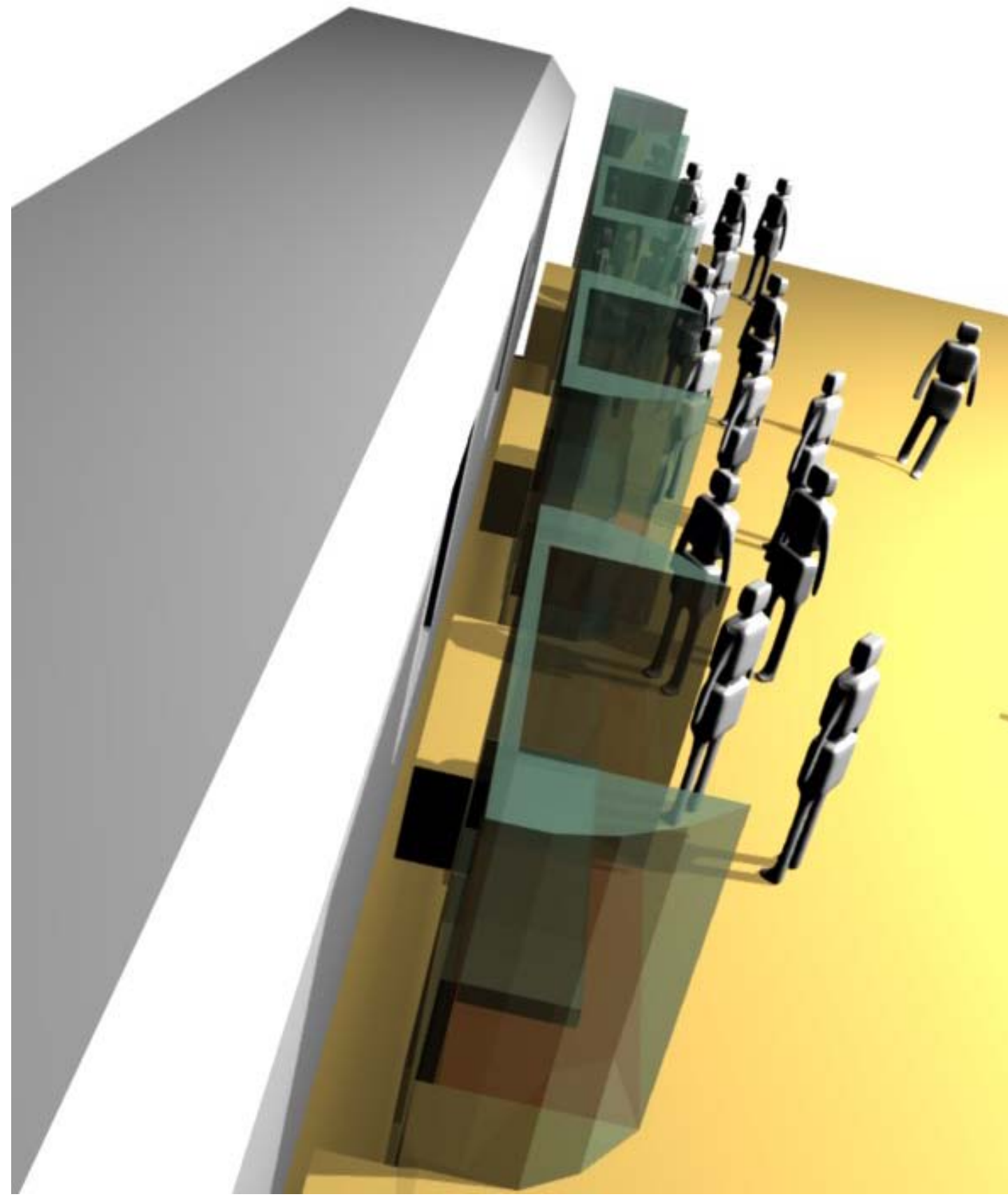
プラットフォームの端の一部は、常に人が立ち入らない空間となっている。これは電車発着時を問わない。

これら3つの場所と用途をユーザーにとっての最適解になるように再配置する為、デッドスペースに設置するデバイスを提案します。

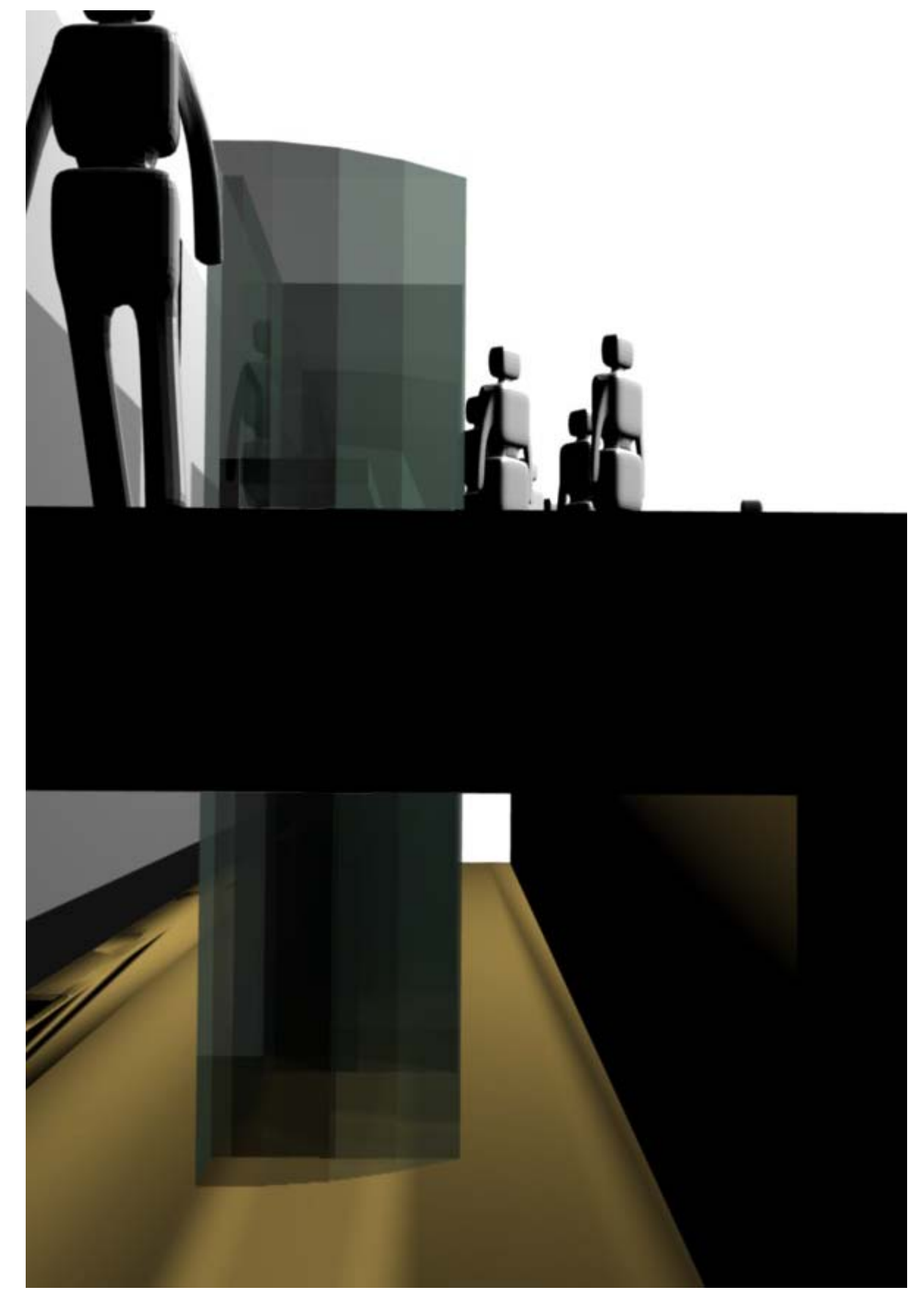
①端を歩かせない



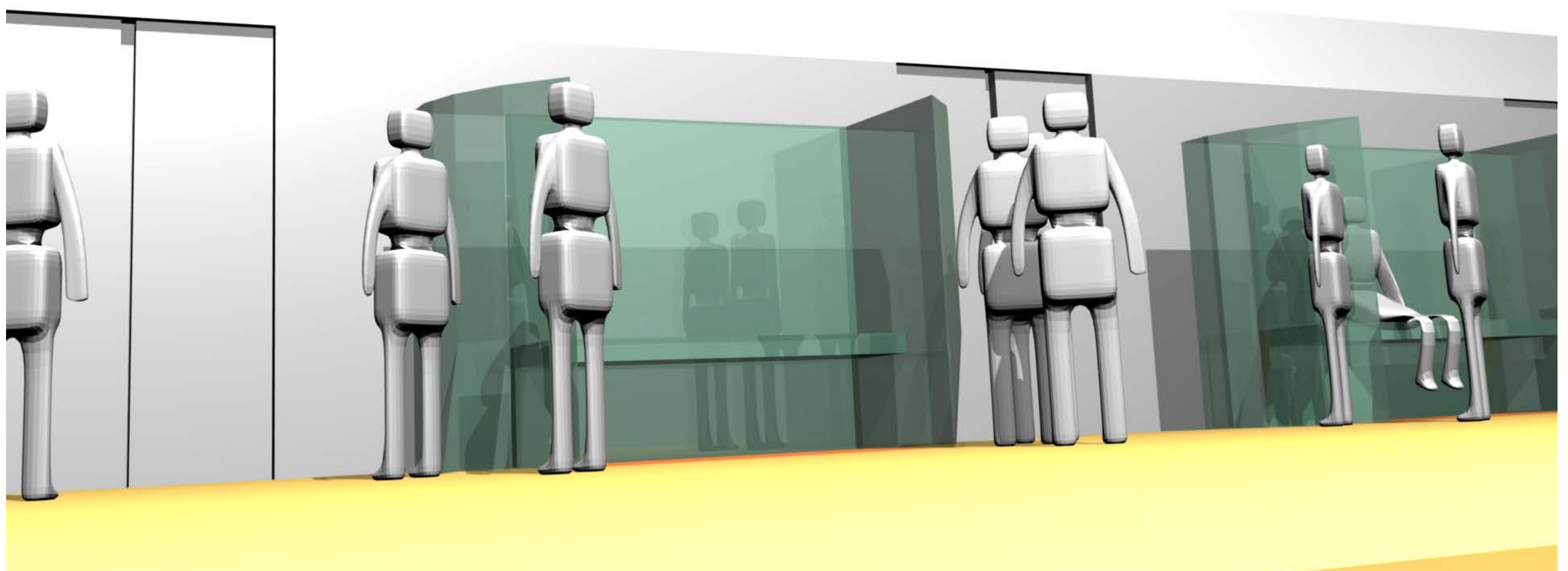
②視認性の確保



④逃げ域の確保



③中心線上の障害物の移動



端を歩く人

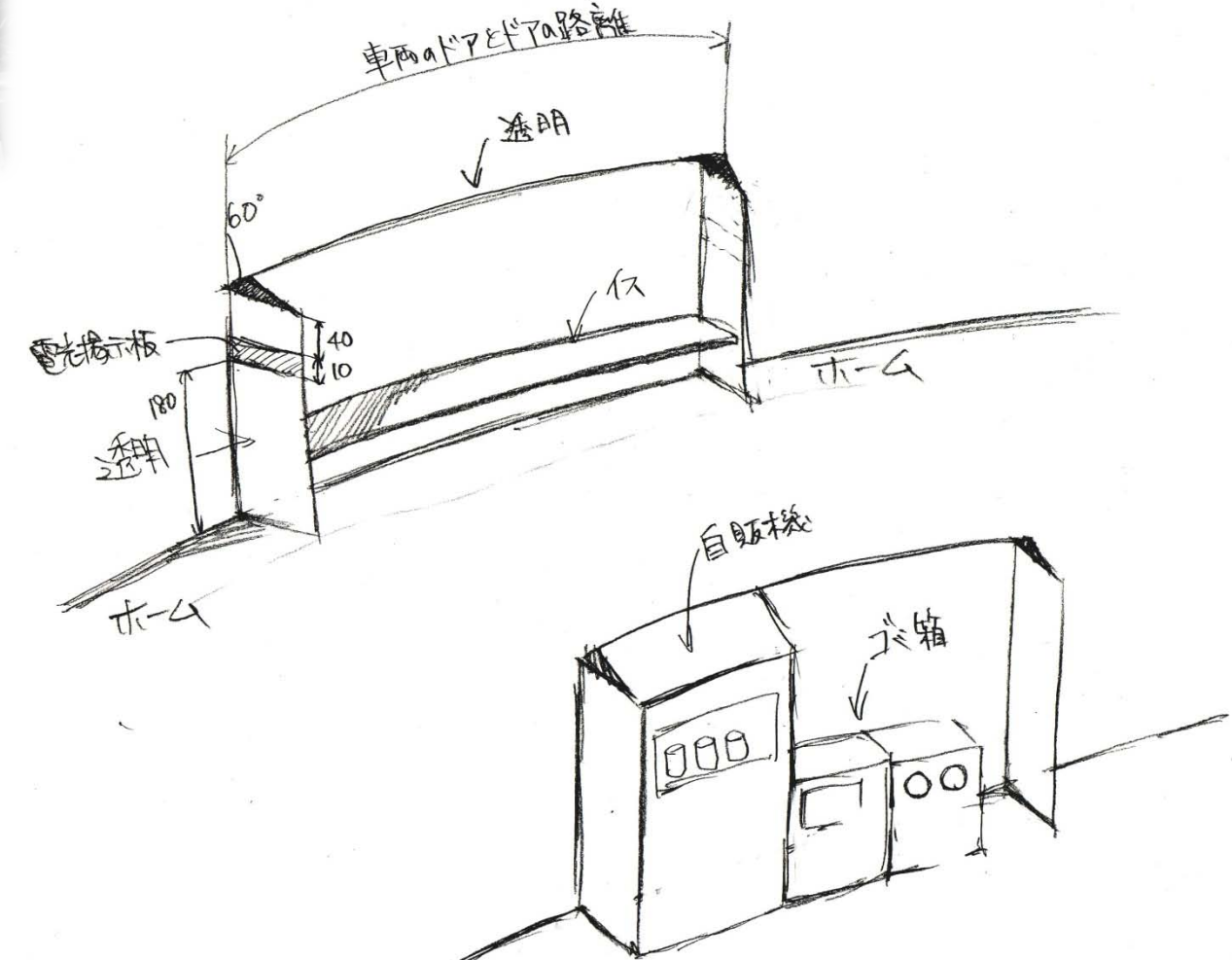
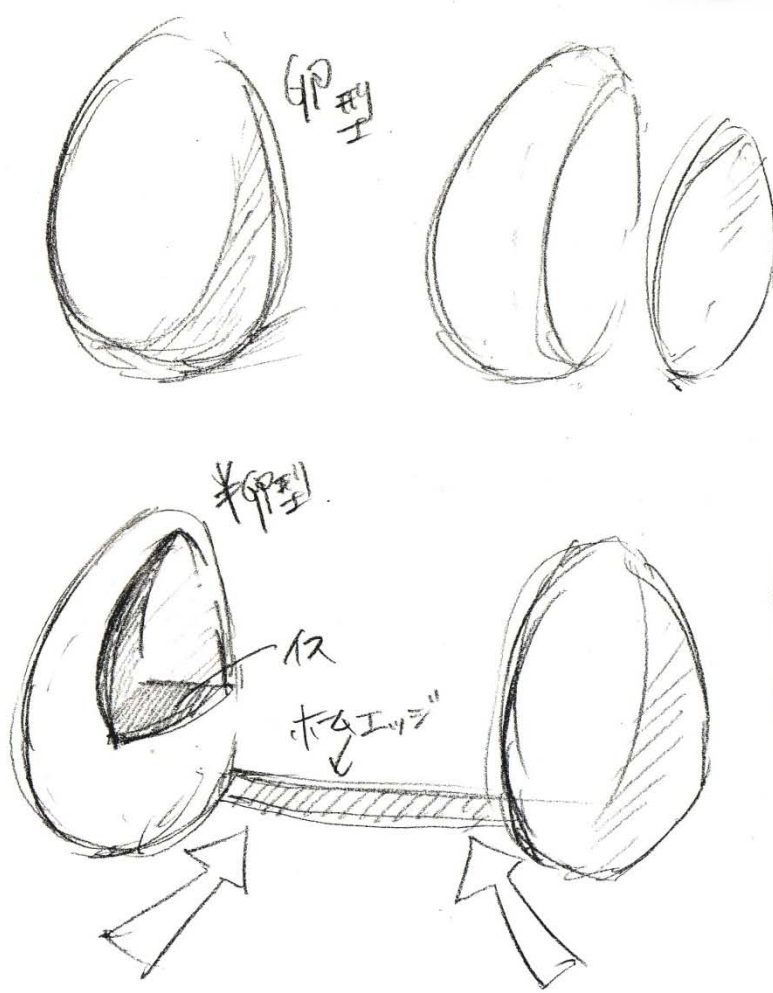
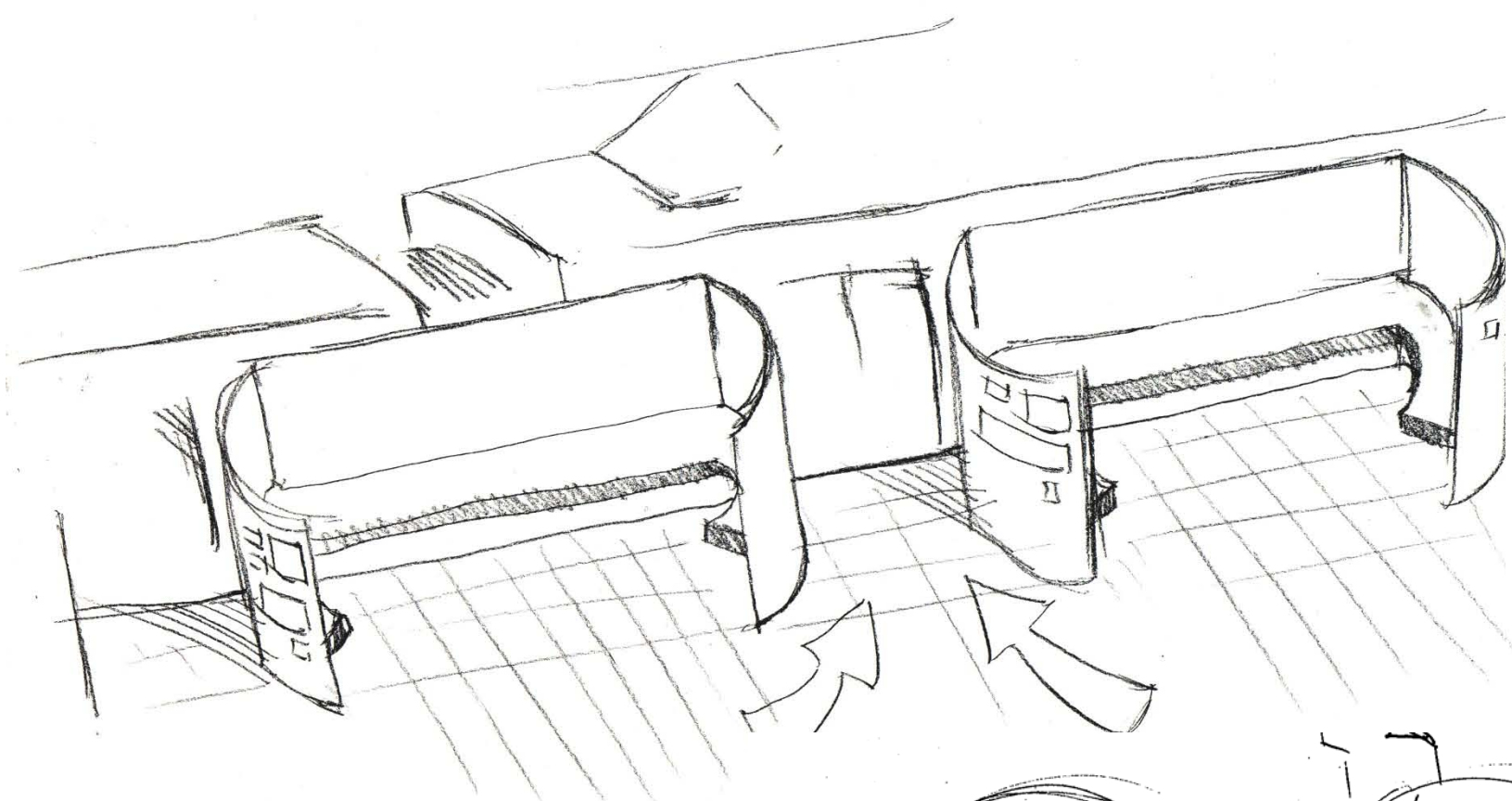
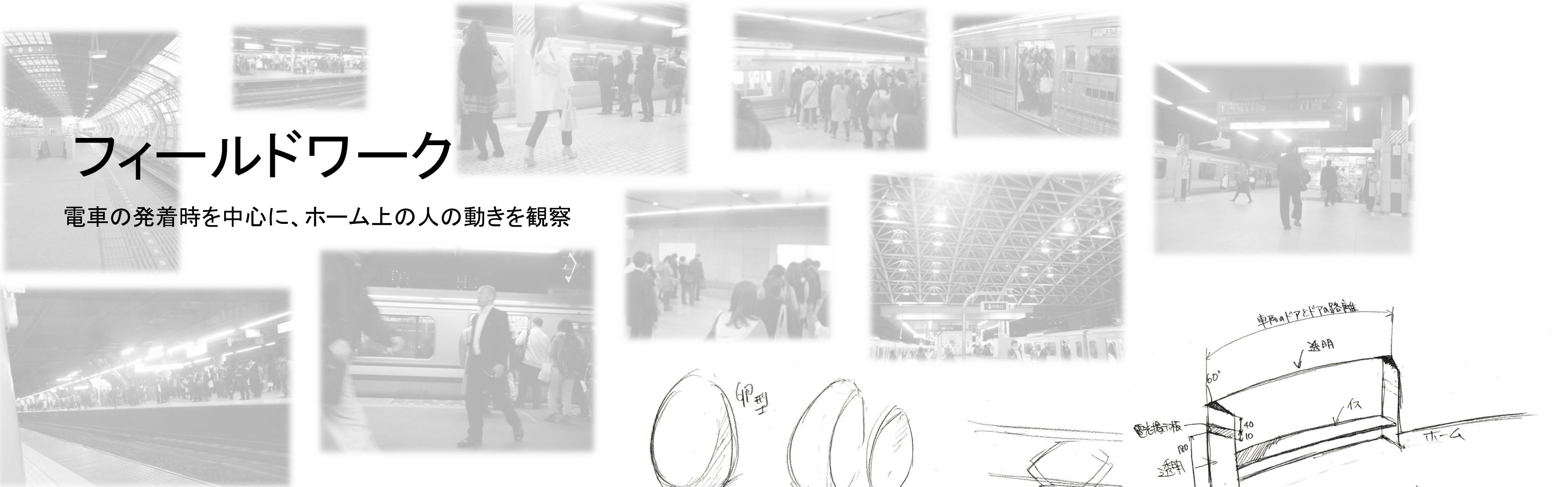


デッドスペース



フィールドワーク

電車の発着時を中心に、ホーム上の人々の動きを観察



デバイス形状の模索

デッドスペースの形状にあわせて機能の埋め込みが可能なホームの形状や車掌視点での視認性の確保も議論



模型制作

デバイスのスケール感の実験
ホームとその上に乗っている構造物

